

第2回秋田市マイタウン・バス東部線木曾石地区運行協議会議事要旨

開催日時 平成24年12月20日(木) 午後6時15分～8時15分

開催場所 木曾石公民館

委員数 9名

出席委員 6名

議 事 (1) マイタウン・バス東部線の利用実績について(資料1)
(2) マイタウン・バス東部線の利用促進について
(3) 八田上丁バス停に設置している公衆電話について

そ の 他

次 第 1 開 会
2 議 事
3 そ の 他
4 閉 会

事 務 局 1 開会
2 議事

会 長 挨拶
次第2の議事(1)および(2)について一括して事務局から説明願う。

事 務 局 (資料に沿って説明)

会 長 意見や質問はないか。

委 員 なぜ、この時期に協議会を開いたのか。もっと早く開催するべきではなかったのか。

事 務 局 通常、議題が無ければ開催は考えていない。また、昨年10月から高齢者コインバス事業が始まってから1年が経過し、その影響による利用状況の報告を議題としたためである。なお、協議会の開催については、随時、会長の招集で開催できることとなっている。

- 委員 東部線の上北手コースと木曾石コースのバスの本数が違う。1日のうち、3本しかないバスであると病院や買物で利用することに不安である。また、始発の便であるが、去年の協議会で病院への通院時間に合わせるため、時間を遅らせたが、それまで通勤で使っていた人が大変不便している。時間を遅らせるのではなく、バスの本数を増やすべきではないのか。木曾石地区の人は、通勤には使えないということか。また、コインバス事業は大変有り難いが、秋田駅まで行くのに乗り換えして200円払わなければ行けない。岩見三内からは100円で行ける。距離から考えてもおかしくないか。同じ税金を払ってるにもかかわらず不平等ではないか。
- 委員 市としては、移動手段を確保するためにバスを運行することを目的としているため、定時定路で便数を多く運行させることではない。利用者の利便をよくするためには、デマンド方式もある。
- 委員 去年の協議会でデマンドを要望したが却下された。
- 委員 デマンドの場合は、オペレーターの人件費がかかり、経費へのリスクがあるため、いろいろな方法を研究していかなければならないと考えている。例としては、地区でコミュニティバスを運行し、補助を行うということも考えられる。また、それらについての費用対効果も考えて行かなければならない。
- 事務局 デマンドについて、再度検討を行う。
- 委員 バス路線であるが、仁別循環線を提案した経緯がある。その当時は、対応してもらわなかったが。
- 事務局 仁別循環線にすると、路線が長くなり、経費がかかりましますことから無理だという回答をした。
- 委員 他の地域でタウンバスがうまくいっているという所は、大きな車両の路線バスから小さなワゴンバスに変わり、大通りだけを走るのではなく、ここまでだったらバスで来てくれるというような小回りのきくバスになり大変便利になり利用者が増えたとテレビでやっていたが、そういうことはできないのか。
- 委員 現在、定路方式で運行をしているので、そういった場所を教えて欲しい。
- 委員 そういうことは利用者が集まった会としてやるべきことであり、この会のような委員だけが集まるような会は間違っていると思う。
- 事務局 この会は、利用者の代表を出していただくことをお願いしている。

委員 委員 では、それに対して今回の会の内容を事前に送ってもらえれば良かった。

事務局 事務局 事前にお知らせして意見を聞くようにしたいと思う。

委員 委員 これまでの話について、地域の要望があれば路線の延伸や時間調整などは、要望全てを受け入れることはできないが、若干であれば対応はできる。

委員 委員 具体的な要望ですが、通学していらっしゃる方が、和岱入口を7時20分だと間に合うと言っていたので検討できないか。

委員 委員 元々、病院に通う人がいるため8時20分としている。

委員 委員 バスの利用者が増えたということだろう。

事務局 事務局 延伸後、コインバスの影響もあり利用者が増えている。

委員 委員 1人のために1便増やして欲しいということだが、赤字であるということを加味して議論してもらいたい。増やすことが可能であればいいが、そうでなく時間を変更するというのであれば、現在の利用者が不便を被ることになる。

委員 委員 実際、7時台に運行させてくれといっても、既に他のコースで車両2台を運行させているため運行車両が無い状態である。他のコースの便を変更するのであれば可能ではあるが。

委員 委員 他のコースの7時台の利用者はたくさんいるのか。

委員 委員 いつも利用される利用者はいる。ただ、昼や夕方時間帯であれば増やすことは可能である。朝の便を増便することは厳しい状況である。

委員 委員 微妙に調整できないか。

委員 委員 回送時間も30分程度考慮しなければいけないので、朝の時間帯は無理である。中北手コースでは、7時40分に利用する固定客もいる。

委員 委員 今の時間になる前は、中北手コースでは時間帯が遅かったのではないか。

委員 委員 8時20分だったと思う。ただ、木曽石コースは、病院へ通院する人を優先するというので今の時間としている。

委員 委員 その固定客もその時間で間に合うのだとすれば、木曽石コースへ1便増やす

- ことができるのではないか。
- 委員 時間については、実際に組んでみないと分からない。
- 委員 可能かどうかについては、検討してみないと分からない。
- 委員 なぜ、上北手コースはバスの本数がこんなに多いのか。
- 委員 路線バスで運行した当時の本数が多かったためである。それをマイタウン・バスが引き継いでいるものである
- 委員 例えば、上北手コースを日中減らしても、木曽石コースの利用者が増えるということはないと思う。
- 委員 ダイヤを組まないと簡単にはいかない。検討する時間が必要ではないか。
- 委員 今までのダイヤは変更してもらいたくない。通院に支障が出るし、1便増やすのであればいいが、時間は変えて欲しくない。利用者は木曽石の人ばかりではない。変更するのであれば町内会毎に話し合いが必要である。3町内の合意であればいいが1町内の要望だけで変更してもらいたくない。
- 事務局 例えば、便数が増える代わりに時間も変わるようになることについては如何か。
- 委員 それは良くない。朝の時間に通学する子供はいない。高齢者にはこの時間が定着してきたものである。1便増やせるのか増やせないのかを検討して欲しい。
- 会長 すぐにはできないことであるので、検討するというにしたい。
- 事務局 一度に全部はできないので、1つ1つステップを踏みながら、朝の便数の増便やデマンド方式導入について、検討させてもらいたい。
- 会長 それでは、次に議事(3)について事務局から説明願う。
- 事務局 (説明)
- 委員 利用者がいなければ撤去でもいいのではないか。
- 委員 八田町内会長に確認した方がいい。

事務局 | では、本協議会では撤去ということだが、町内会長さんの了解を得た上で実施していきたい。

会 長 | 他に意見があるか。

委 員 | 先ほども話したが、この地区は秋田駅まで行くのに乗り換えして200円払わなければ行けないことに対して、岩見三内からは100円で行けることについてどうなのか。乗り継ぎの割引など潟上市ではやっている。

委 員 | 潟上市では、1回乗ると150円であり、秋田まで乗り継ぎすると別料金である。

委 員 | とにかく、郵便切手でも、どこまで郵送しても80円である。やはり、距離から考えると岩見三内の方がよっぽど遠い場所であるのに。

会 長 | この件については、持ち帰って検討してもらうことにしたらどうか。

事務局 | 現在の制度では難しい。
マイタウン・バスが秋田駅まで延伸できればということになるが、中央交通との営業路線と重複している。市中央部は中央交通、郊外部はマイタウン・バスとして交通サービスのシェアリングをしているため、これから両者がどこまで協調できるか、長い時間がかかると思う。

会 長 | 意見や質問がないようなので、以上で本日の議事を終了する。

—協議会終了—